

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-169	A-169	21-411	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)			
Alcohol screening and brief intervention in emergency departments: Review of the impact on healthcare costs and utilization 救急部におけるアルコールのスクリーニングと簡易介入。医療費と利用率への影響に関するレビュー			
執筆者			
Barbosa C, McKnight-Eily LR, Grosse SD, Bray J.			
掲載誌			
J Subst Abuse Treat. 2020;117:108096. doi:10.1016/j.jsat.2020.108096			
キーワード			PMID
アルコール, 救急室, 医療費と利用率, スクリーニングテストと簡易介入			32811624
要 旨			
目的： 救急外来で実施されるアルコールのスクリーニングおよび簡易介入（SBI）が医療利用および医療費に与える影響について発表されたエビデンスを検討する。			
主な結果： このスコーピングレビューでは、電子データベースで補完された既存の文献レビューを使用した。救急外来で実施されたアルコールに対する SBI を評価し、医療利用率および/または医療費を報告している研究を対象とした。各研究から方法論的アプローチと医療利用アウトカムを抽出し、対象物質に基づいて分類した（アルコールのみ、アルコールと他の物質）。各研究の費用推定値を 2018 年の米ドルに更新した。2010 年から 2019 年に発表された研究のうち、研究の包括基準を満たした 7 件を特定した。7 件の研究のうち 2 件は、アルコールとその他の物質の両方を対象とした SBI を評価していた。6 件の研究では、医療利用または費用の減少が認められ、1 件の研究では医療利用の増加が認められた。			
主な結論： この文献レビューは、救急外来で提供される SBI は、過剰なアルコール消費を治療するためのコスト削減アプローチとなり得ることを示唆しており、政策立案者や支払者が介入の優先順位付けにおいて考慮すべき要素である。			